

SDS

1. 製品及び製造者情報

用 途：油及び汚れ除去

会 社 ニューサンライト株式会社  
 住 所 埼玉県草加市青柳 1-5-41  
 担当 部門 技術部  
 電話 番号 048-951-2131  
 FAX 番号 048-951-2380  
 Eメール ns1.support@train.ocn.ne.jp  
 緊急連絡先 同上  
 作成日 2019年 04月 1日

整理番号 ALCL S-7

製 品 名 リーセント S-7

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類 可燃性・引火性ガス 可燃性・引火性エアゾール 支燃性・酸化性ガス 高压ガス 引火性液体 可燃性固体 自己反応性化学品 自然発火性液体 自然発火性固体 自己発熱性化学品 水反応可燃性化学品 酸化性液体 酸化性固体 有機過酸化物 金属腐食性物質	分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 区分外 分類対象外 分類対象外 区分外 分類対象外 分類できない 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 区分1 区分4 区分5 分類対象外 分類できない 分類対象外(粉塵) 分類できない(ミスト)
人健康有害性	皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2 区分1 分類できない 区分外 分類できない 区分外 分類できない 区分外 区分外 区分外
環境有害性	吸引性呼吸器有害性 水性環境急性有害性 水性環境慢性有害性	分類できない 区分外 区分外

## ラベル要素

絵表示又はシンボル：皮膚刺激性物質



金属腐食性物質



注意喚起語： 警告

危険有害性情報： 皮膚刺激  
重篤な眼の損傷  
飲み込むと有害の恐れ

注意書き：

## 【安全対策】

予防策：全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

使用前に取扱説明書入手すること。

保護手袋、保護鏡、保護眼鏡、マスクを着用すること。

ミスト、蒸気を、スプレーを吸入しない。

取り扱った後、手、顔などをよく洗い、うがいをする。

環境への放出を避ける。

保 管：風通しの良い冷暗所に保管すること。

廃 棄：内容物や容器を地域の規則に従って廃棄すること。

対 応：気分が悪い時は医師に連絡する。

目に入った場合は、清浄な水で数分間洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

## 3. 物質の特定

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名： \_\_\_\_\_

成分及び含有量： \_\_\_\_\_

化学式又構造式： \_\_\_\_\_

官報公示整理番号（化審法 安衛法） \_\_\_\_\_

CAS No.

国連分類及び国連番号：国連の基準で危険物に該当しない。

## 4. 応 急 措 置

目に入った場合：直ちに清浄な水で15分間以上、眼を洗浄し、速やかに医師の手当てを受ける。洗浄の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。

コンタクトレンズを着用している場合は、固着していない限り、外して洗浄を続ける。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：汚染した衣類、靴などは速やかに脱ぎ捨てる。

直ちに清浄な水で十分洗浄する。アルカリ性の製品なので石鹸を用いず、微温湯を洗い流しながら皮膚の刺激や、ぬるぬるする感じがなくなるまで洗い続ける。一時間以上を要する事がある。外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は直ちに医師の診断、手当てを受ける。

吸入した場合：大量に吸入した場合は、清浄な空気の中で安静にし、医師の手当てを受ける。

必要に応じて人工呼吸、酸素吸入を行う。

飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗浄し、多量の水を飲ませ吐き出させ、直ちに医師の手当てを受ける。

---

意識が無い場合は、口から何も与えてはならない。

---

## 5. 火災時の処置

- 消火方法 :爆発性など消防法で危険物に該当するものではないので、一般的な消火方法を用いる。  
容器を安全な場所に、速やかに移動する。又は、容器及び周辺に散水して冷却する。
- 消火剤 :常水、泡状、粉末、炭酸ガスを用いる。
- 

## 6. 漏出時の処置

- 回収:少量の場合:乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて処理する。  
多量の場合:盛土で囲って流出を防止し、容器に回収する。  
河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。環境に放出しない。  
安全な場所で処理する。
- 

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い :①取扱いにあたっては、安全メガネ、マスク、ゴム手袋等の保護具を着用する。  
②取扱い後は手洗いとうがいを十分に行う。
- 保 管 :アルカリ性の製品なので、酸性の製品とは同一場所に貯蔵しない。
- 

## 8. 暴露防止措置

- 管理濃度:設定されていない。  
許容濃度:日本産業衛生学会(1992年):設定されていない。  
ACGIH(1992年):設定されていない。  
設備対策:取扱い場所の近くに洗顔及び身体洗浄のための設備を設置する。  
保護具:呼吸用保護具=噴霧作業等必要に応じマスクを用いる。  
保護手袋=ゴム又はビニール手袋  
保護衣=通常の作業衣
- 

## 9. 物理的/化学的性質

- |     |           |     |              |
|-----|-----------|-----|--------------|
| 外 観 | :透明液状     | 臭 気 | :殆ど無し        |
| 比 重 | :1.08/25℃ | 揮発性 | :無し          |
| 溶解度 | :水 「易溶」   | pH  | :約1.2(5%水溶液) |
- 

## 10. 安定性/反応性

- 使用容器:アルミ・銅とその合金及びスズ・亜鉛・クロム処理の容器は使用しない。  
安定性:熱、光・衝撃に対して通常の取扱い条件においては安定。  
反応性:自然発火性及び水との反応性は無い。
- 

## 11. 有害性情報

- 皮膚腐食性:皮膚に接触すると薬傷を起こす。  
刺激性:蒸気は刺激性が有留。液が目に入ると失明する事がある。  
製品有害性情報:吸入・飲用不可。上記障害を起こす事がある。  
飲み込んだ場合は、重度の障害或いは生命に危険を及ぼす事もある。
- 

## 12. 環境影響情報

- 魚毒性:魚毒性は低いと考えられる。
- 

## 13. 廃棄上の注意

- 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。
- 

## 14. 輸送上の注意

- ①運搬に際しては容器に漏れの無い事を確かめ、転倒、落下、損傷がない様に積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。
- 

## 15. 摘要法令

- |                            |        |
|----------------------------|--------|
| 化審法:特定化学物質・指定化学物質          | : 該当せず |
| 労働安全衛生法:特化則・有機物・表示物質       | : 該当せず |
| 化学物質管理促進法(PRTR法):第一種指定化学物質 | : 該当せず |
| :第二種指定化学物質                 | : 該当せず |
| 消防法:危険物                    | : 該当せず |
| 毒物及び劇物取締法・毒物劇              | : 該当せず |

---

危険物船舶運送及び貯蔵規則：危険物	: 該当せず
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	: 該当せず
輸出貿易管理令：規則物質	: 該当せず

---

## 16. MSDSの作成と訂正に関する情報を含むその他の情報

引用文献：厚生省生活衛生局生活化学安全対策室  
通商産業省基礎産業局 化学品安全課 } 監修  
労働省労働基準局安全衛生部化学物質調査課 }

「国際化学物質安全性カード」化学工業日報社 1991

「化学物質毒性データ集」日本メディカルセンター 1971

「GHS対応MSDSの書き方」日本ケミカルデータベース(株)佐藤弘 2008

- ※ この情報は新しい知見に基づき改定されることがあります。
- ※ ここに記載された情報は、当社の最善の情報に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の有害性が有りうる為、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適性に関する決定は使用者の責任において行って下さい。
- ※ 本製品は水溶液の為、漏電もしくは感電の恐れのあるところでの使用は避けて下さい。
- ※ 子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ※ 本製品はアルカリ性の為、銅・アルミ等非鉄金属使用箇所は汚れ成分除去後速やかに十分に水洗いして下さい。
- ※ 塗装面の洗浄は、塗膜の種類により変色する場合がありますので、あらかじめ目立たない箇所で確認の上洗浄作業を行なって下さい。